

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

1月中旬になって、大北地域のスキー場が全面滑走できない状態が続いた。天気予報に一喜一憂している関係者。しかし、収益の重要なウエイトを占

める、年末年始や連休での減収を今後取り戻すことは、大変困難な状況だ。多くの観光関係者に影響を尋ねる。「外国人関係者の入り込みがあり、何とか収益を確保している」「民宿を経営しているが、日本人の入り込みが大幅に減った」「上部が滑走可能だったため、雪不足の他のスキーエリアからの入り込みが多く、混雑での不満の声が多かった」など、個別の経営内容により、大きな収益差や影響が出たことも事実だ。

この状況が、今シーズンだけの、異常事態だと言いつけるだろうか。地球温暖化抑制の議論は国際的な高まりだが、中国経済を起因に経済減速の状況下。年明け後の急激な株価下落は、投資家の心理を冷やし、余暇活動を含む経済活動に影響を及ぼすだろう。また暴

か。地球温暖化抑制の議論は国際的な高まりだが、中国経済を起因に経済減速の状況下。年明け後の急激な株価下落は、投資家の心理を冷やし、余暇活動を含む経済活動に影響を及ぼすだろう。また暴

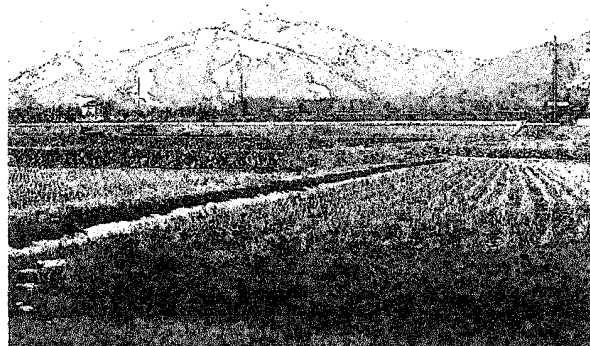
まっ。このような状況下に置かれた大北地域の経済対策について真剣な検討が必要だ。外国人に対応できない既存民宿等の営業施設の存続は、厳しさを増しているのだから。地域経済は、日本文化の体験を

声も多くなってきた。また、長期滞在する観光客のための安価な宿泊施設の提供も益々期待されていくのだから。既に外国人旅行者は、宿での日本的なサービスが無ければ、日本文化の体験を

施設が営業を始めた。地域全体でどのような戦略を仕掛けていくか、今問われている。地域の財産である山岳美は国際的な評価を受けている。その麓で暮らす、日本的な里山をどのように創り上げていくのか。大きな夢を抱きながら、語り合ってほしいと願っている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

今シーズンの雪不足が、当たり前前の状況になったらと、考えてみませんか

力的な勢力による治安の不安定な地域が、世界各地で急激に拡散している。地球温暖化は、総論賛成だが、各論での対策が取れない状況だ。このため地球規模の温暖化の歯止めは難しいと思われる。全体を考えた時、地域エリアでの宿泊可能収容人員をどうしていくのか、どうあるべきなのか。環境重視で大型施設を排除してきた考えから、外国から訪れる富裕層を受け入れる宿泊施設が必要だとの意図しての外食への期待度は、益々高まっていくだろう。今シーズンから、大町エリアや糸魚川エリアへの外食プランも登場している。また白馬エリアでも外国人の外食を期待して、多くの



新春のわが家から八方尾根を望む、地域にとって雪は財産だと改めて確認する